

「新防災教育副読本を活用した指導事例」

<p>学校名 [将監中学校] 氏名 [遠藤 晋] [中] 学校 [] 年版 単元名 [心の交流会] p 16～17 教科・領域名 [道徳] [時間 50 分]</p>	
<p>主な学習活動 (実際に行った活動)</p>	<p>指導の実際</p>
<p>【ねらい】 生きていくことは周囲の人々の支えによる ことが大きいことに気付くとともに、日頃から感謝 の気持ちと思いやりの大切さを理解する。 【内容項目】 2－(2) 人間愛・感謝・思いやり 1 資料を読む。</p>	<p>【導入にあたって】 ・ 雰囲気作りのために、p 4～5を活用 し、被災の状況や避難所生活など、東日 本大震災時に体験したことを発表させ、 当時を想起させた。</p>
<p>【発問】 雄勝中の生徒が、雑巾を「丁寧に繰り返し洗っ て使った」のはどうしてだと思いますか。</p>	
<p><生徒の反応> ・ 雄勝中のためのメッセージ入りの雑巾だか ら大切に使おうと思った。 ・ 復興への気持ちが詰まった雑巾だから ・ 粗末に扱ったら失礼 ・ 様々な人から励ましのメッセージをいただ いたことによる感謝の気持ち ・ 生出中の生徒たちが一枚一枚丁寧に書いて くれたメッセージ入りだったから。</p>	
<p>【発問】 生出中の生徒が胸にした「今までとは違った思 い」とは、どんなことでしょう。</p>	
<p><生徒の反応> ・ 太鼓の演奏を通して、仲を深められてうれ しかった。震災の被害を乗り越えてがんばっ てほしい。 ・ 交流会を通して一緒になれた一体感。 ・ 善意が返ってきてうれしいと感じた。 ・ 今までは同情や支援をしてあげようという 気持ちだったが、雄勝中の被災をしながらも がんばる姿に尊敬のような思いを抱いた。</p>	<p>資料から学んだこと・感想等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 私たちはあまり被害に遭わなかった が、次また大震災が起きたら、被災し た人々を助けられるような行動をしよ うと思った。 ・ 災害というものは誰にも変えられな い運命だが、支援の仕方であらゆる元 気へと変えられるということが分かった。 ・ このような大震災のような、いざと う時は支え合える仲間がいるとい うことがとても重要だということをし 学んだ。 ・ 当たり前の生活に感謝しなければい けないと思った。
<p>2 教師の説話を聞く。 ・ 離れた人同士でも支え合うことができる。 ・ 気持ちを通わせること、思いやりの大切さ。 ・ 生きていくことは人々の支え合いが大きい。</p>	

学校名 [高砂中学校] 氏名 [菅野 英幸] [中] 学校 [2・3] 年版 単元名 [仙台平野 災害の歴史を学ぼう] P 32～33 教科・領域名 [社会] [時間 50 分]	
主な学習活動 (実際に行った活動)	指導の実際
<p>1 東日本大震災について振り返る</p> <p>東日本大震災 私たちの地域も多くの被害を受けました。</p> <p>私たちの記録と記憶を伝えるためにも、私たちの故郷仙台の歴史を調べてみましょう。</p> <p>2 「浪分神社」の由来について調べる</p> <p>課題① なぜ「浪分神社」というのでしょうか?</p> <ul style="list-style-type: none"> 単なる伝説ではない。 地図を見ると東日本大震災の津波到達地点と一致している。 <p>3 身近な地域で起きた過去の大地震・大津波を調べる</p> <p>課題② (1)弥生時代の津波 (2)平安時代の地震と津波 (3)江戸時代の地震と津波</p> <ul style="list-style-type: none"> 「杵形遺跡」に砂に埋まった水田跡が発見された。 貞観地震では、東日本大震災とほぼ同じ場所に津波が到達している。 慶長三陸地震では「駿府政事録」に被害の様子が詳しく記されている。 <p>課題③ 宮城県の過去の大災害の種類と発生数を数字で記入してみよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 19～20世紀には何回も災害が発生している 明治、昭和の三陸大地震でも大きな被害があった。 <p>4 まとめ</p> <p>課題④ 課題①～③を通して気づいたこと、注意すべきことを考えてみよう</p> <ul style="list-style-type: none"> 平安時代や江戸時代にも東日本大震災と同じ位の規模の地震・津波が発生しことがわかった。 大雨や台風などの災害も数多く発生している。 100年に一度の割合で大災害が発生している。 昔の人の記録や体験などを活用して、いつ災害が起きても対応できるよう準備すべきだと思う。 	<p>○ 学習形態 グループ学習(6人)</p> <p>○ 指導に当たって 被災により多くの被害を受けている生徒が多く在籍しているので、生徒一人ひとりの被災状況を念頭に指導を進める。</p> <p>○ 指導の手引きと変更した点 本校の被災状況や中野地区の現在の様子などを加えた。</p> <p>○ 副読本以外の資料 パワーポイント(電子黒板, 高砂中防災ノートを活用した。</p> <p>○ 別紙ワークシートの使用</p> <ul style="list-style-type: none"> 高砂中防災ノートを併用しながら地震が起きた年代, マグニチュード, 文献, 被害の様子などをまとめる。 過去の災害の件数を数字でまとめる。 <p>○ 授業の様子(写真)</p>  <p>○ 生徒の感想(一部抜粋)</p> <ul style="list-style-type: none"> 直接被災体験した自分たちが、今度は災害の語り部として多くの人々に語り伝えることが大切だと思う。 自分たちの地域で自然災害に関する伝承や施設などを調べてみたい。 東日本大震災の経験を直接伝えることができる世代なので、災害の歴史をふまえながら後の人にしっかりと伝えていきたい。

社会科ワークシート 「仙台平野 災害の歴史を学ぼう」

年 組 番 氏名()

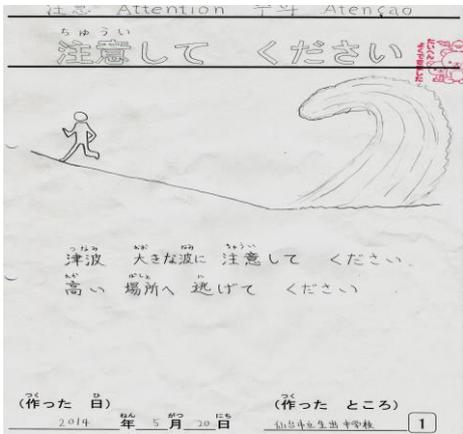
課題 1	なぜ「浪分神社」というのでしょうか？

課題 2	身近な地域で起こった過去の大地震・大津波を調べてみよう			
大地震・大津波	いつ頃 (年代)	マグニ チュード	当時の記録や証拠 となるものは？	どのような被害があったのか？
弥生時代 の津波		/		
平安時代				
江戸時代				

課題 3	防災ノート p2 を見て、宮城県の過去の大災害の種類と発生数下の表に数字を入れてみよう。
-------------	--

課題 4	課題 1～3 を学習して、気づいたこと・注意すべきことをあげてみよう
-------------	------------------------------------

課題 3	地震	津波	大雨・洪水	大風	課題 4 気づいたこと・注意すべきこと
8 世紀					
9 世紀					
15 世紀					
16 世紀					
17 世紀					
18 世紀					
19 世紀					
20 世紀					
合 計					

学校名 [生出中学校] 氏名 [三上 直子] 授業者 [浅野 佑一] 学校 [中] 年版 [2] 単元名 [情報に振り回されないために] P36～37 教科・領域名 [国語] [時間 50 分]	
主な学習活動 (実際に行った活動)	指導の実際
<p>(二年生 国語の教科書 P40～47の学習が一通り終わった後に行った。)</p> <p>1 震災当時、情報をどこから得ていたか。(発問) ・新聞 ・テレビ ・ラジオ ・インターネット等</p> <p>2 災害時、どう行動すれば良いか、災害時における生活レベルの向上のために情報が必要不可欠であることを知る。 ・ 副読本 (P36～37) を音読する。(学習活動)</p> <p>3 外国の人も分かる「やさしい日本語」を使ったポスターを書いてみよう。(中心発問・学習活動) ・ 見出しは複数の言語で表す。 ・ 内容は一枚の掲示物につき一つの情報とする。 ・ 表記には漢字を用いる。(漢字圏の人は意味を推測することができ、避難場所や目印となる建物は漢字で表記されている場合が多いから。) ・ 言葉の区切りごとに一字分空けて意味のまとまりを分かりやすくする。 ・ 内容に関連する絵や地図を付けて情報を補う。 上記の点に注意してポスターを書く。</p> <p>4 書いたポスターを黒板に貼り、意見交流をする。</p>	<p>1 被害を大きく受けた地域ではないため、情報に困るという経験をした生徒が少ない。そのため、教師から避難所の実態や避難所での情報の提供方法を説明した。</p> <p>3 国語の教科書では阪神淡路大震災の事例を踏まえている。現在の日本には外国からの人々も多くいる実態を話した。日本人を含め、外国の人たちにも正確に情報を伝えるための一つの方法として「やさしい日本語」を用いたポスターを作らせた。 ・ 佐藤和之教授(弘前大学)の研究室で運営しているホームページにあった「やさしい日本語」を使用したポスターの例を数枚提示した。</p> <p>4 「もっとわかりやすく誤解のない表現がないか」について仲間が書いた作品を読み合いながら検討していた。 (生徒感想) ・ 重要なところを絞って書くことを学んだ。 ・ 難しい言葉ではなく、いかに言い換えるかが大切であることを学んだ。 ・ やさしい日本語は外国の人だけではなく、高齢者や子供にも分かりやすいということ学んだ。</p>
 <p>5 振り返りシートに振り返りを記入する。</p>	

学校名 [仙台市立田子中学校]

氏名 [白石 和也]

[中] 学校 [1・2・3] 年版 単元名 [一人一人が災害に備える] P 38～39

教科・領域名 [総合的な学習の時間] [時間 50 分]

主な学習活動 (実際に行った活動)

指導の実際

【はじめに】本校では11月の「田子地区地域防災訓練(市民センター・地区・小学校・中学校合同)」に向けて「防災強化期間」を設けており、防災講演会等の様々な活動に取り組んでいる。その中の「防災訓練地区打合せ①」で本資料を活用した。授業は町内会ごとに学年の枠を外して行い、そこに町内会の方も一緒に参観・活動して授業を行った。今年度は特に「自助」をテーマに展開をしている。

【防災強化期間のねらい】

大震災の再来に備え、「田子地区地域防災訓練」に向けて、地域社会との連携を強化し、災害発生時の地域の防災体制の整備と防災意識の向上を図る。

【事前活動】

- ・地区担当の複数教師の役割分担を決める。(チーフ、全体司会、授業担当、地域担当)
- ・生徒は帰りの会終了後、地区教室に移動。
- ・地区担当教師は今日の授業の流れについて地区の方と打合せ。

【学習活動】

(導入) …全体司会教師

- ・教師、地区の方の自己紹介→生徒の自己紹介。
- ・生徒の学年ごとのリーダーの決定。
- ・今日の授業内容の説明。

(展開) …授業担当教師

- 1,災害直後の生活を振り返る。
 - ・自衛隊と駐屯地にいた。学校にいた。等
- 2,本時の学習活動のねらい

- ・持ち物…□筆記用具□防災ファイル
□学習プリント□新防災副読本



- ・地域の人に生徒の顔を覚えてもらう事も目的の1つなので大きな声で挨拶をさせる。
- ・座席は学年ごととし、学年ごとの話し合いも行う。また、地区ごとの集まりなので、内容によっては学年の枠を外して討議することも可能とした。

～今日の授業のねらい～

自助、共助、公助のうちの自助について考え、中学生ができることに気付こう

- 3,防災・減災という言葉の確認と説明
- 4,自宅内避難について考える。
- 5,循環備蓄について知る。
 - ・震災後の食生活を振り返る。
 - ・自分の家の循環備蓄について考える。
- 6,中学生のできることにについて。

- ・授業担当教師以外の教師は机間巡視を行い、生徒の学習プリントの記入状況や個人的にアドバイスをを行う。
- ・地区ごとに授業の展開部分や方法は違うが、副読本を読み進めながら授業を進め

・中学生にできることを以前の防災訓練の活動から考える。

(まとめ) …全体司会教師

- ・地域の方から今日の授業について、また生徒の反応等について感想を述べてもらう。
- ・授業担当教師による振り返りと総括

【連絡】

- ・次回の「防災訓練地区打合せ②」→「田子地区地域防災訓練」→「緊急避難訓練」等の一連の防災強化期間について説明。
- ・生徒リーダーによる号令。
- ・地区の方と次回の打合せ②の内容(地域防災訓練の内容の説明、地区ごとの生徒の役割の確認、集合時間や持ち物等)説明が中心であることを説明する。

る教師が多かった。

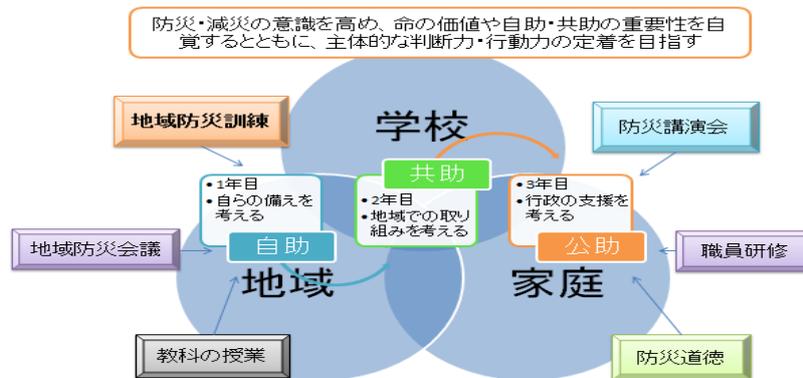
- ・中学生にできることは地区の方が持ち帰り、次回の防災訓練に生かすようにする。このことで生徒にとって実際に活動する内容を考えることとなる。



【まとめ】 防災強化期間は 1、防災講演会(「非常時に大切なこと」予備自衛官 阿部美奈子氏) 2、防災訓練地区打合せ① 3、防災備品確認研修会 4、防災訓練地区打合せ② 5、地域防災訓練 6、緊急地震速報訓練 という 6 の活動がある。また、生徒の活動についても 1 年目に「自助」を考え、2 年目に「共助」、3 年目に「公助」について学び、中学校の 3 年間を通してすべての生徒に防災について考える機会を設けることとした。

地域の方からは「生徒達の顔が分かり、有意義な活動である。」「中学生の挨拶がすばらしい。」等の感想が述べられた。

この活動のキーポイントは一つ目に防災副読本の活用があげられる。副読本も「自助」「共助」「公助(メカニズム等も含む)」に分けられて構成されているので 3 年間を通して活用できることである。また、「市民センター」が仲介役として「学校」と「地区」を結びつけていることも大きなポイントである。学校だけではできないことを「市民センター」がやってくれたことに感謝したい。今後は一斉下校訓練などの活動を組み合わせてより有事に備えた活動をしていきたい。



仙台市立田子中学校 防災強化期間

学校名 [仙台市立南中山中学校] **氏名** [須藤 千寿子]
[中] 学校 **単元名** [第4章 自助につながる判断・行動] P 38～45
教科・領域名 [総合的な学習の時間] **学年** [3年] [**時間** 5時間]

主な学習活動（実際に行った活動）	指導の実際
<p>1 防災・減災という言葉について確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 防災・減災という言葉を知っていますか。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 防災訓練 ・ 防災グッズ <p>2 「自助・共助」という言葉について考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 文章の中にある「自助」についてまとめてみよう。また、「共助」という言葉について考えてみよう。 </div> <p>3 東日本大震災の時の生活を振り返る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 東日本大震災の時に、あなたは家族や地域の人とどんな助け合いをしましたか。自分が家族や近所の人にしてもらったこと、あるいは、自分が家族を助けたり、ご近所の方や地域のために何かしたことがあれば書いてください。（前時のプリントから） </div> <p>4 災害などの時、中学生ができることについて知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ P 38を読み、大震災の時の中学生の果たした役割について考える。 ・ 地震防災アドバイザーの山田耕太郎さんの言葉を紹介する。 <p>5 次時の学習の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 明日の総合の「救急救命講習」と「DIG 研修（災害図上訓練）」について確認する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災と減災の違いについて理解させる。 ・ ワークシートに記入。 ・ 資料を読んで確認させる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 「防災」という言葉はよく聞くが、「減災」という言葉は聞いたことがない生徒が多い。 </div> <p>【板書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自助…自分の命は自分で守る。生き延びる。 ・ 共助…お互いに助け合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 前時の学習プリントから、いくつか紹介する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 水が出る場所を近所の方が教えてくれた。 ・ 隣の家の人はプロパンガスだったので、お風呂に入らせてもらった。 ・ 夕食を分けてもらったり、一緒に食べたりした。自分の家でも、近所の方々に食料を分ける等した。 ・ 隣の家の人が小学校で引き取りをやっていることを兄に教えてくれた。両親は仕事でいなかったが、そのおかげで家に帰れた。 ・ 家族で分担して給水に行ったり、朝早くから並んで買い出しに行ったりした。 ・ 近所の方がふかし芋を配っていたり、水を配っていたりした。 ・ 避難所のボランティアをした。 </div> <p>「それぞれの地区で大きな力となるのは、中学生だと思う。（中略）中学生の役割の大きさにあらためて気付かされた東日本大震災だった。」</p> <p>（別紙プリント参照）</p>

主な学習活動（実際に行った活動）	指導の実際
<ol style="list-style-type: none"> 1 DVDで救急救命について知る。 2 倒れていた人がいた場合の行動について確認する。 <ul style="list-style-type: none"> ・周囲の安全を確保。 ・意識があるかどうか，呼びかける。 ・呼吸があるかどうか，確認する。 ・救急に連絡する人，AEDを持ってくる人など，分担して（あるいは周囲の人に頼んで）行動する。 3 心肺蘇生法について学習する。 <ul style="list-style-type: none"> ・二人1組で，道具を使って練習する。 4 AEDの使い方を学習する。 <ul style="list-style-type: none"> ・二人1組で，道具を使って練習する。 5 最後に，DVDを観て学習のまとめをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・救急救命の方のお話 「勇気を持って行動すること」 	
<ol style="list-style-type: none"> 1 DIG研修（災害図上訓練）とはどんなことをするのかを知る。 <ul style="list-style-type: none"> ・東日本大震災の時のこの地域の様子について。 ・普段から，自分たちの地域について知っておくことの大切さについて。 2 学区内の地図を使って，道路や病院，公共の施設などを確認し，色分けしていく。 <ul style="list-style-type: none"> ・大きい道路（幹線道路）細い道（私道） ・病院，市民センター，保育園など 3 危険な箇所や，大震災の時に被害があった場所を見つけ，付箋を貼っていく。 <ul style="list-style-type: none"> ・暗い道や見通しの悪い道 ・がけ崩れが起こった場所 4 自分たちの地域の良いところ，気をつけなければならないことなどについて話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> ・模造紙に話し合いの結果をまとめていく。 5 各グループごとに発表する。 	

学校名 [田子中学校] 氏名 [白石 和 也] [中] 学校 [中学校] 年版 単元名 [一人一人が災害に備える] P38～39 教科・領域名 [総合的な学習の時間] [時間 50分]	
主な学習活動 (実際に行った活動)	指導の実際
<p>【はじめに】</p> <p>田子中学校では「地域防災訓練」を中心とした「防災強化期間」(9月～11月)を設定している。その中で、「地域防災訓練」に向けて、地区ごとに生徒と教員、地域の方を交えた打合せ会を行っている。第1回打合せの中で、「防災副読本」を活用し、地域社会との連携・地域との防災体制の整備・防災意識の向上を図る目的で授業を行った。</p>	
<p>※5校時終了→清掃→帰りの会→地区ごとの教室に移動</p> <p>1 授業開始</p> <p>(1) 導入</p> <ul style="list-style-type: none"> ○教師...自己紹介と今日の授業の目的の説明 ○地区の方...自己紹介と一言 <p>(2) 生徒自己紹介</p> <p>(3) 学年防災チーフの決定</p> <p>(4) 副読本の活用</p> <p>① 災害直後の生活を振り返る。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">3.11のあと、どのような生活をしていましたか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 避難所生活を送っていた。 ・ 地区の方と炊きだしをしていた。 <p>② 授業の目標の確認</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">自助について考え、「地域防災訓練」について自分ができることを考えよう</p> <p>③ 防災、減災という言葉について確認する。</p> <p>④ 自宅内避難について考える。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">自宅内を避難所とする場合に必要なのは何か</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 家具を倒れないように固定する。 	<p>～教師の役割～</p> <p>※1地区2人から3人の教員配置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 地域担当...地域の方を会議室から教室まで誘導し、内容について簡単に打合せをする。 ・ 全体司会...教師の自己紹介や講話、地域の方の自己紹介、生徒の自己紹介等全体の司会をする。 ・ 授業担当...新防災教育副読本に沿って授業を進める。(その他の先生は机間巡視) ・ 地区の方と顔見知りになることも目的の1つ。「よろしくお願ひします」等の挨拶を大切に。 ・ 異学年なので、十分に目標を確認する。 <p>☆副読本の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自宅内で避難できる場所の確認 <p>※学年ごとに話し合いを持つ</p> <p>☆副読本の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 副読本については2,3名指名し生徒に判読させる。 ・ 地区の方にもコピーしたものを配布し、授業の内容について担当教諭から随時説明する。 ・ 地区の方や異学年がいても話し合いができるように意識づけと役割分担、代表者の発言等工夫するように指導する。 ・ 司会等は極力生徒のチーフにさせて、自主的な活動を促す。
	
○授業風景	

⑤ 循環備蓄について知る。

「循環備蓄」とは、どういうことだろうか。

- ・ 震災後にどんな食生活をしてきたかを振り返る。
- ・ 自分たちの家で実際備蓄しておきたいものについて考える。

⑥ 中学生ができることを考える。

中学生の私たちができることには、どんなことがあるでしょう。

- ・ お年寄りを回り、体調や震災時の避難について確認する。
- ・ 炊きだし訓練
- ・ 要救護車の搬送
- ・ マンション等建築物の巡視
- ・ 水分の確保

⑦ 振り返り

(5) 地区の方から一言

(6) まとめと連絡 号令・解散



○授業風景

☆副読本の活用

- ・ 備蓄できるものの条件について考えさせる。
- ・ 各自、備蓄できるものを具体的にあげて、必要なものを書き出させる。

☆副読本の活用

- ・ 防災訓練時に何ができるのか考えさせる。学年ごとに活動内容が違うことも事前に話しておく。
- ・ 2, 3年生は過去の「防災訓練」の経験から今回の訓練で中学生が何が出来るのか具体的に話し合う。
- ・ 話し合った内容を地区の方でも理解できるように丁寧に説明させる。
- ・ 感想や次回の地区防災訓練についての話等をもらう。

《連絡》

- ・ 次回の予定...〇月〇日(金) 地域防災訓練の役割等詳細の説明...地区の方から分担予定
- ・ ファイルと防災読本は回収し、担当で目を通す。次回は担当から配布する。
- ・ 今日の態度の評価等を担当の先生からもらう。
- ・ 3年生から号令。
- ・ 3時30分ごろをめでに終了、解散ですが多少のずれは問題なし。「さよなら」の挨拶。
- ・ 地区の方と次回の内容を確認(地域主体で地域防災訓令の内容について)をしてそのまま解散。

【終わりに】

今後、各地区の生徒チーフを集めて「防災クラブ」を組織し、防災についての各行事の主体として活動する。

主な仕事・・・地区の集会、防災訓練の反省会等の司会進行、各地区の活動のまとめ作成。

防災ワークシート②（一人一人が災害に備える）

地区名	担当の先生	年	組	番	氏名
-----	-------	---	---	---	----

～会の内容～（例）

- ① 担当の先生から ②、町内会の方から ③代表生徒の決定 ④、一人一人が災害に備える
⑤、町内会の方から ⑥、担当の先生から

1、先生方・町内会代表の方の話

--

2、地区の代表生徒を決めよう。（※地区によってはブロックの代表になります。）

1年	2年	3年
()	()	()

3、防災と減災の違いについてまとめましょう。

防災
減災

4、自助って何？

自助とは、

--

5、自宅内避難について

自分の家で自宅内避難する場合にどこが最適かを考えましょう。

場 所： ()

理 由：

注意点・改善点：

*班の他の人はどんな風に考えたのかな？

6、循環備蓄

備蓄する食料として可能な物にはどんな物があるでしょうか？

*自分で優先的に備蓄しておきたいものに○をつけてみましょう。

7、中学生である私たちが、大きな災害の後に地域の役に立てることにはどんなことがあるでしょうか？

「地域で助け合う」（共助）場面で、中学生の果たす役割は大きい

学校名 [加茂中学校]

氏名 [松本 敏秀]

[中] 学校 [] 年版

単元名 [自分の身は自分で守る] P40 ~ 41

教科・領域名 [学級活動] [時間 50分]

主な学習活動 (実際に行った活動)

指導の実際

【ねらい】

自分の命は自分で守るとのこと (自助) について、実践的活動を通して理解する。

1 東日本大震災の経験について話し合う。

3.11.のとき、どこで何をしていましたか。

2 学校で被災した場合について考える。

今この場で強い揺れを感じたら、まずどうしたらいいですか。

「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」場所を判断し、そこに身を寄せることが原則と知る。

3 日常に潜む危険を探す。

P.40①～④の写真の場面で、どんな危険が潜んでいるでしょう。

4 家で被災した場合について考える。

リビングで強い揺れを感じたら、まずどうしたらいいですか。

・ソファとテーブルの間のすき間に隠れ、クッションで頭を保護する。

台所で強い揺れを感じたら、まずどうしたらいいですか。

・お湯をかぶる、包丁が飛ぶ、割れた食器でけが、開いた引き出しで身動きがとれないなど、台所は危険なので近づかない。

寝室で強い揺れを感じたら、まずどうしたらいいですか。

・ベッドから降りて布団をかぶる。枕で頭を保護する。

5 授業を振り返る。

避難訓練は授業中を想定しているが、大地震は今まで授業中には起きていない。



○不安や課題がある場合は、無理に振り返らせない。

○第一次避難姿勢は、机の下に隠れる。その理由も考えさせる。

○適切な行動を考えさせる。

・火、なべ、蛍光灯、包丁、自動販売機、瓦、電線、車、塀、看板、窓ガラスなど

○机がないときはどうすべきか考えさせる。

・頭と目を守る

○大きな家具が転倒してきたときのことなど考えさせる。

○「まず火を消す」は間違いである。ガスや電気は自動で止まる場合が多い。復旧時危険なので、揺れが治ったら OFF にする。

○日頃から、頭より高い位置に物を置かないことが大事。写真では壁面の額が危険。

○危険を予測すること、適切な行動と対策を確認しておくことが必要。

自分の身は自分で守る

組 番 氏名

1 授業中に強い揺れを感じた。

--

2 日常に潜む危険を探そう。

①	②
③	④

3 リビングに机がないぞ！



--

4 台所で火を使っている！



--

5 人生の1／3は寝室で過ごす。



--

6 授業を終えて

--

学校名 [南光台東中学校] 指導者 [各学級担任] [中] 学校 [1・2・3] 年版 単元名 [自分の身は自分で守る] 副読本 P40～43 教科・領域名 [学活] [時間 50分 2時間扱い]	
主な学習活動 (予定している活動)	指導の実際
<p style="text-align: center;">【学級活動のねらい】</p> <p>震災時に小学校4・5・6年生だった現在の中学1～3年生に震災の経験を振り返らせると共に、災害に備え「減災」につなげる対応力を身につけさせる。</p> <p style="text-align: center;">【第1時】</p> <p>活動1</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">2011. 3. 11 震災時の被災経験について</div> <p>地震発生時及びその後の様子を思い出させ、班で話し合い、発表し合う。</p> <p>① 発生時の避難の様子はどうだったか？</p> <p>② 家庭の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・安否確認をどのように行ったか ・食料・水・トイレ・情報入手手段など <p>③ 避難所での生活</p> <p>*③がない場合は、教師から実態を概説・紹介する。</p> <p>活動2</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">地震発生！そのとき、自分ならどうする？</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">副読本 P40 の写真①～④</div> <p>それぞれの場合の予想される危険について班で話し合い、発表し合う。</p> <p>① 学校での調理実習中</p> <p>② 登下校時の昇降口付近</p> <p>③ 交通量の多い道路沿いの立体駐車場そば</p> <p>④ ブロック塀や電信柱が林立する住宅街</p> <p style="text-align: center;">【第2時への準備】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">副読本 P42</div> <p>「家族で話し合いチェックをしよう」を宿題として取り組み、家庭での防災意識と実態を調査する。</p>	<p style="text-align: center;">○教師からの提示</p> <p style="text-align: center;">【南光台東中学校の被災状況の振り返り】</p> <p>◇震災時に、太平洋側の沿岸部は未曾有の巨大津波による壊滅的な被害を受けた。南光台東中学区は、津波の被害こそなかったものの、校舎や家屋の半壊・全壊、ライフラインの遮断などの被害を受け、校地内の武道館が臨時避難所となり、地域住民と教職員、そして中学生や高校生の協力により避難所生活が運営された。</p> <p>◇その後4月から、南光台東小学校への「間借り生活」で半年間、そして1年半にわたる仮設校舎での学校生活を経て、今年度4月から本校舎への復帰を果たした。</p> <p style="text-align: center;">【第1時の活動内容】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">活動1 被災経験の振り返りと共有</div> <p>震災時の対応について具体的に振り返り、情報交換を行い、学級全体で共有し合う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">活動2 地震発生時の危険予測と対応</div> <p>地震発生時の具体的な対処法について確認し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 消火および、危険物の管理 ○ 落下物に対する危険回避 ○ 倒壊に対する危険回避 <p style="text-align: center;">【第2時へ向けての準備・指示】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 5px auto;">副読本 P42</div> <p>「家族で話し合いチェックをしよう」を翌日に回収し、学級全体の実態を次時まで集計しておく。</p>

【第2時】

活動1 自宅の備えについて振り返る

各家庭での調査結果と学級の集計結果を基に、災害への備えとして、具体的に何が必要かを考える。

副読本 P42

- 家の中、家の周囲の安全性確認
 - ・家具などの転倒防止策 ・落下物防止策
 - ・飛び出し防止器具 ・ガラスなど飛散防止フィルム
- 家庭内での食料・水等の備え
 - ・食料や飲料水の1週間程度の備蓄
 - ・生活用水の確保 ・非常用持ち出し袋の準備
- 家族の安否確認の方法
 - ・非常時の連絡方法 ・「災害伝言ダイヤル171」
 - ・避難場所・避難経路の把握
 - ・自然災害に対する知識と避難方法
- 地域での助け合い
 - ・「顔の見える関係」づくり
 - ・身近な高齢者や障害者の把握 ・応急手当の方法
 - ・地域で発生した過去の災害に対する知識

活動2

災害に対する「備え」のあり方について

副読本 P38・39・43

- ① 防災・減災とは ② 自宅内避難所をつくろう
 - ③ 循環備蓄の勧め ④ 余震に備えて
- ①～④に関する新しく確認できたこと各々を各自でまとめる。

活動3

災害発生時に、中学生はどのような役割を担うことができるだろうか。

災害発生時に、学校や家庭・地域において、中学生はどのような行動がとれるかを考え、班ごとに話し合い、共有し合う。

【第2時の活動および指導内容】

活動1 災害への備えの実態把握

- 今後の災害への具体的な備えについて、各家庭の調査結果を元に考えさせる。
- 各自の家庭のデータを振り返り、今後の努力点に着目させる。
- 南光台東中学区の全体的傾向をつかみ、地域としての努力点についても考えさせる。

活動2 災害に対する備えのあり方

副読本 P38・39・43 を読ませ、

- ① 防災・減災とは
- ② 自宅内避難所をつくろう
- ③ 循環備蓄の勧め
- ④ 余震に備えて

新しく確認できたことをまとめさせる。

活動3 災害発生時における中学生の可能性

災害発生時に、中学生は学校や家庭・地域でどのように行動をとり、貢献できるかを考えさせる。

学校名 [南小泉中学校] 氏名 [柴田 行人] [中] 学校 [3] 年版 単元名 [心の健康を守るために] P46～ 教科・領域名 [保健体育] [時間 50分]	
主な学習活動 (実際に行った活動)	指導の実際
<p>1. 導入</p> <p>○ ストレスチェックをする。 <生徒の反応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 思ったより疲れているな。 ・ 疲れているはずなのに数値は大して高くない。など <p>○ 副読本 p.46 (序文) を読む。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>心の健康を取り戻すには どうしたら良いだろう。</p> </div> <p>2. 展開</p> <p>○ 副読本 p.46 の①と②を読み、重要な語句や事項をワークシートにまとめる。 <生徒の反応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 初めて聞いた。こんな病気があるのか。 ・ ト라우マは聞いたことがある。 など <p>○ 副読本 p.47 の③と④を読み、ポイントをワークシートにまとめる。</p> <p>○ 生徒にオリジナルのリラックス方法を考えさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>心の健康を取り戻すには どうしたら良いだろう。</p> </div> <p><生徒の反応></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 寝る。 ・ 音楽を聴く。 ・ お風呂に入る。 ・ 食べる。 ・ 本を読む。 ・ 体を動かす。 など <p>○ 手軽にできるリラックス方法を紹介する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 寝る…アロマキャンドル ・ お風呂…入浴剤 ・ 体…腹式呼吸 (副読本 p.47) +セルフ体操 <p>3. まとめ</p> <p>○ 感想を記入させる。</p>	<p>▲ 『ストレスチェックリスト』を使用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ チェック点数と該当した生徒の人数 <p>0～5点…5人 6～10点…25人 11～20点…6人 21～30点…1人</p> <p>▲ 「ストレスを軽減するために、どのような方法があるか」という観点で問いかける。</p> <p>▲ 「PTSD の定義」を書いた画用紙を掲示。 PTSD (Post Traumatic Stress Disorder)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生死に関わるような実際の危険にあたり、死傷の現場を目撃したりするなどの体験によって強い恐怖を感じ、それが記憶に残って心の傷 (トラウマ) となり、何度も思い出されて当時と同じような恐怖を感じ続けるという病気。(厚生労働省 HP より引用) <p>▲ なかなか思いつかない生徒には、「普段疲れた時にどうしているか」を考えさせる。</p> <p>【生徒の感想】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 震災などによるストレスからの、心のケアの方法を知れたので、家などでやってみたい。 ・ 3.11 のような災害は、人々の心に大きなストレスを与え、それが原因となる心の病気があることが分かった。

学校名 [館中学校] [中] 学校 [1・2・3]	氏名 [稲田 瑞穂] 年版 単元名 [地域の一員として] P52～53 教科・領域名 [学級活動] [50分]
--	---

主な学習活動 (実際に行った活動)	指導の実際
-------------------	-------

<p>【ねらい】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域住民が互いに協力し「自分たちの地域は自分たちで守る“共助”」が重要になることを理解させる。 ・中学生も地域の一員として大きな力となることが期待されていることを踏まえ、自分たちのできることを考えさせ、共助の意識高揚を図る。 ・翌日の「地域防災訓練」に臨む心構えをもたせる。 <p>1 「共助」について知る。</p> <p>2 大震災の際、自分のまわりでどのような助け合いがあったかを振り返る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>3. 11直後、館地区では、どんなことで助け合いましたか。(どんな助け合いを憶えていますか)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・水くみや炊き出しの手伝い。 ・避難者の誘導、避難所での物資配給の手伝い。 <p>3 自分たちでもできそうなことについて考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>地域〔町内会〕の中で、中学生でもできることには、どんなことがあると思いますか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・携帯やスマートフォンで知った情報をみんなに知らせる。 ・初期消火を手伝う。 ・近所の要救助者を知らせる。 ・避難所まで誘導する。 <p>4 災害時要支援者について知る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>災害時要支援者とはどのような人のことか知っていますか。自分の家の近所に、災害時要支援者がどこに住んでいるのか知っていますか。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者 ・妊婦 ・乳幼児 ・難病患者 ・外国人〔日本語不十分〕 ・障害者 <p>5 翌日の「地域防災訓練」に臨む心構えを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の一員としての心構えを考える。 	<p><留意点等></p> <ul style="list-style-type: none"> *震災当時の地域のような写真、手伝いのようすの写真、当時の生徒作文(全校生徒記入)などを用意し、振り返る手立てとする。 *現1～3年生は、震災当時小学4～6年生。「自助」の意識はあるものの「共助」についての意識は高くない。 *震災当時の地域の中学生や高校生(卒業生)がどのような活躍をしたかに目を向けさせる。 *P52を参考に、「地域防災」や「自助・共助・公助」について知らせる。 *震災当時、他地域を含め、実際にあった中学生の活躍を知らせる。P53「保健師さんの記録から」を読む。活動するために大切なことを話し合わせる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>◇生徒の感想文から◇(地域防災訓練後) 地域防災訓練に参加して思ったことは、みんなの絆の大切さを知りました。3.11のような大きな災害が起きたら、みんなで協力して助け合うことが大切です。私は、消防署の方に心臓マッサージなどのやり方を教わりとてもためになりました。これからも、友達や地域の方と仲良くしながら、みんなの役に立つような人になりたいと思いました。 (1年女子)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> *ワークシートに記入し、発表する。
--	---

<館地区地域防災訓練について> 平成 25 年 6 月 29 日（土）実施

事前 前日学活「地域の一員として」の学習，当日の動きの確認

当日

- 1 自宅で災害発生…身の安全の確保，二次災害防止
- 2 一時避難所（町内会単位：各公園）への避難〔館小児童，館中生徒，町内会住民〕…安否確認
- 3 避難要支援及び防災センター備品の搬出〔館中生徒，町内会住民〕をしながら，指定避難所へ移動



- 4 指定避難所集合〔町内会単位〕：館中校庭



- 5 避難所開設訓練〔町内会単位〕：館中体育館



- 6 各種訓練

(1) 防災本部・避難所開設訓練（地区担当者），避難者名簿記入：体育館

(2) 町内会単位で，訓練（中3，小6，町内会住民）：校庭

◇トイレ用水訓練／テント設営訓練／水消火器訓練／発電機作動訓練

◇小1 2 3 4 5の児童は，濃煙訓練と消防車見学 のち，小学校へ移動し防災・減災学習

(3) 炊き出し訓練（該当町内会及び当該町内会中3女子）：ピロティ

(4) 町内会単位で，AED使用訓練及び防災減災学習（中1，中2，町内会住民）：武道館



事後 『地域防災訓練に参加して』という題で，感想文を記入〔宿題〕

学校名 [仙台市立南吉成中学校] [中] 学校	氏名 [鎌田 和之] 単元名 [地域の一員として] P52～53 教科・領域名 [総合的な時間] [6時間]																										
主な学習活動 (実際に行った活動)	指導の実際																										
平成25年度の実践内容 「生徒が主導する地域防災訓練」 <開催日> 平成25年11月15日(金) <訓練参加者> ① 本校の全校生徒：約290人、 本校教職員26人 ② 父母教師会の役員など：約100人 ③ 学校・地域支援組織の役員等：約30人 ④ 地域住民等の参加依頼者：約150人 ⑤ その他、協力支援関係者等：約20人 (計) 約600人 <日程の概要> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <tr> <td style="width: 20%; padding: 5px;">8:15</td> <td style="padding: 5px;"></td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">8:30</td> <td style="padding: 5px;">地震発生</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">9:00</td> <td style="padding: 5px;">集団避難・移動開始</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px; text-align: center;">↓</td> <td style="padding: 5px; text-align: center;">〈避難所・受付〉</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">10:00</td> <td style="padding: 5px;">学校に避難・受付完了</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">10:30</td> <td style="padding: 5px;">本日の日程・活動説明 ポスターセッション</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px; text-align: center;">↓</td> <td style="padding: 5px; text-align: center;">↓ 〈15分間隔で班・移動〉</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">11:30</td> <td style="padding: 5px;">(終了)</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">11:45</td> <td style="padding: 5px;">炊き出し試食</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">12:45</td> <td style="padding: 5px;">(後片付け)</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">13:00</td> <td style="padding: 5px;">講演会 (14:30～14:45 休憩)</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">(14:45)</td> <td style="padding: 5px;">活動報告・総括等</td> </tr> <tr> <td style="padding: 5px;">16:00</td> <td style="padding: 5px;">終了</td> </tr> </table>	8:15		8:30	地震発生	9:00	集団避難・移動開始	↓	〈避難所・受付〉	10:00	学校に避難・受付完了	10:30	本日の日程・活動説明 ポスターセッション	↓	↓ 〈15分間隔で班・移動〉	11:30	(終了)	11:45	炊き出し試食	12:45	(後片付け)	13:00	講演会 (14:30～14:45 休憩)	(14:45)	活動報告・総括等	16:00	終了	中学3年生は、避難所の開設と運営、炊き出し調理と配給、集団避難の誘導、救急・救護、災害状況の情報収集、災害対策本部などの各班に分かれ、学校地域支援組織(チームMY・SP)の支援を受けて地域防災訓練を行う。中学1・2年生は主に避難者役となり、3年生の指導を受けて訓練に参加して学ぶ。 (1) 集団避難訓練について 一時避難所は、今年の訓練では一時避難所を4ヶ所にし、各40～60人程度の生徒と地域住民十数名が避難集合している。ただし、学校近隣の生徒については、直接に学校に避難・登校する。 3年生の集団避難・誘導の担当生徒は、1・2年生と地域住民を一時避難所から、中学校まで集団避難誘導を務める。 (2) 各班毎の活動の様子 ① 避難所設営・運営班・・・避難所を設営して避難者に対応。受付で避難者の名前等を記録
8:15																											
8:30	地震発生																										
9:00	集団避難・移動開始																										
↓	〈避難所・受付〉																										
10:00	学校に避難・受付完了																										
10:30	本日の日程・活動説明 ポスターセッション																										
↓	↓ 〈15分間隔で班・移動〉																										
11:30	(終了)																										
11:45	炊き出し試食																										
12:45	(後片付け)																										
13:00	講演会 (14:30～14:45 休憩)																										
(14:45)	活動報告・総括等																										
16:00	終了																										
ポスターセッションの様子	② 炊き出し調理班・・・非常災害用炊飯袋でご飯を炊き、本校特製カレー丼550食分を調理・提供 PTA役員が温かい豚汁を調理・提供																										
<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;">   </div>	<div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 20px;">   </div>																										

<まとめ>

生徒と参加者のアンケート調査結果

(1) 調査対象

訓練実施者：3年生 103人、
避難者役・視聴者：1・2年生 198人、
住民 70人

(2) 調査方法

四件尺度法による11項目の質問紙調査

(3) 結果

選択肢“大いに”と“まあまあ”を加えた割合は、全ての項目で9割を超え、良好な評価結果であった。

選択肢“大いに”が3者で最も高いのは3年生

→「中学生は地域防災に貢献できる」
88.3%

住民
→「防災訓練等の防災教育は大切だ」

88.8%

1・2年生

→「訓練は良い・ためになる」

「実際の時に役立つ」

「訓練に参加・協力は必要」

の3項目で78.3%

(4) 相関分析

特に、3年生は学校と地域と一緒に取り組む、防災訓練の必要性や防災教育の重要性を強く認識していた。



③ 集団避難・誘導班・・・4ヶ所に設けた一時避難所に集合し、生徒が誘導して本校まで集団避難



④ 救急・救護班・・・担当生徒が避難者に聞き取りによる健康調査や血圧測定など実施



⑤ 災害状況・情報収集班・・・生徒が支援組織の方と一緒に地域を巡回して危険箇所等を調べ、さらには各戸を訪れ、本校で午後開催するシンポジウムのチラシを配布



⑥ 災害対策本部・・・生徒会役員がトランシーバを携帯して各班の進行状況を把握し、本部に情報を集約。この情報をもとに、計画通りに訓練を進行・実施していたが、炊き出し調理が20分程度の遅れが生じることが分かった。このため、本部と協議して生徒会役員は、10:30から開始した1テーマ15分ずつのポスターセッションを11:30から11:45の1テーマ分を追加することを決め、遅れの時間を調整している。生徒会役員は突然の事態に的確な対応を取り、本部につめて相談・報告を受けた町内会長は臨機応変に適切で迅速な決定に感心していた。

学校名 [南中山中学校] 氏名 [上野 由美子]
 [中] 学校 [1] 年版 単元名 [自分の身は自分で守る] P40
 [がんばれ日本！世界は日本と共にある] P56
 教科・領域名 [美術] [時間 50分]

主な学習活動（実際に行った活動）

指導の実際

- 1 防災について考える。
 防災週間にちなみ、「防災イラスト」を描く。
(学習活動)

「国連防災会議」について、何か知っていますか。

(主発問)

- 先生たちが付けている缶バッジは何ですか。
- その波みたいな模様は何ですか。

(実際の生徒の反応)

- 2 防災週間について理解する
(学習活動)

なぜ防災週間というものがあるのでしょうか。

(主発問)

- 広島で大きな土砂災害が起きたばかりだ。
- 日本は災害が多い国だ。

(実際の生徒の反応)

- 3 防災について考える。イラスト制作。
(学習活動)

防災に関連するものについて考え、イラストにして描いてみよう。

(主発問)

- 副読本の中にヒントはないかな。
- 一口に「防災」って言ってもいろいろある。

(実際の生徒の反応)

- 4 1年生全員で描いたイラストは、文化祭に展示します。皆さんに見て考えてもらいましょう。しっかり取り組んでください。

(まとめの記述)

※ 平成 26 年度「防災週間」
 8月30日(土)から9月5日(金)まで

※ 第3回国連防災会議の缶バッジ



生徒は缶バッジに興味を示した。紫色は、「五輪の色」には無い色。

「津波てんでんこって言葉を知ってる？」
 「釜石の奇跡？」



「32 万人以上」（政府公表）
 南海トラフ地震「最悪の場合」の被害者数。

<文化発表会 9月7日（日）展示>



夏休み明けが防災週間に当たるため、タイムリーな実践になった。また、文化発表会に展示できたのも良かった。生徒はきちんと鑑賞していた。

新防災教育副読本（中学校）『第2章2 約束』を活用した 道徳の指導例

第3学年 道徳指導案

1 主題名 明日に向かって 3－（3） 人間の強さと気高さ、生きる喜び

2 資料名 約束 p 12－13（新防災副読本 中学校）

3 主題設定の理由

（1）価値について

内容項目3－（3）は、「人間には弱さや醜さを克服する強さや気高さがあることを信じて、人間として生きることの喜びを見いだすように努める。」である。ありのままの人間は、決して完全なものではない。人間は、総体として弱さはあるが、それを乗り越え次に向かって行くところに素晴らしさがある。人間として生きることへの喜びや人間の行為の美しさに気付いたとき、人間は強く、また、気高い存在になりうるのである。ここで言う人間としての生きる喜びとは、自己満足ではなく、人からほめられたり、認められたりするという喜び、人間としての誇りや深い人間愛、崇高な人生を目指し、同じ人間として共に生きていくことへの深い喜びである。中学生の時期は、人間が内に弱さや醜さを持つと同時に、強さや気高さを併せて持っていることを理解することができるようになってくる。自分を含め、人はだれでも人間らしいよさを持っていることを認めるとともに、決して人間に絶望することなく、だれに対してもその人間としてのよさを見いだしていく態度を育てることが大切である。そこで指導に当たっては、まず自分だけが弱いのではないということ、自分を奮い立たせることで目指す生き方、誇りある生き方に近付けるということに目を向けられるようにする。人と人の関わりを考えさせることで、その関わりの中で、希望が生まれ、共に生きていくことへの深い喜びにつながることを、しいては「強く生きる」ことにつながることに気付く思考力を育むことにつながることを考える。

（2）生徒の実態について（省略）

（3）資料について

震災の際には、多くの人の命を奪い、たくさんの人の生活を壊した。人間の死を直視しなければならない状況を体験し、故郷を離れざるを得なかった人も多い。震災直後の避難所にはそのような人たちがあふれた。しかし、人々は不安な気持ちにさいなまれながらも、互いに励まし合い支えあった。絆は人の心を強くし、支え合うことで希望が生まれ、強く生きることにつながることに気付かせたい。

4 本時の指導

（1）本時のねらい

絆は人の気持ちを強くし、支えあうことで希望が生まれ、強く生きることにつながることを気付くことができる。【思考力】

新防災教育副読本（中学校）『第2章2 約束』を活用した 道徳の指導例

(2) 指導過程

主な学習活動・内容（○主な発問・生徒の反応）	・留意点 ◎評価
<p>1 本時の学習のめあてを確認する。</p> <p>○今日の授業は、東日本大震災で大切な友達や家をなくした悲しみの中でも、希望を持って前向きに生きようと努めた中学生の作文を題材にして進めます。</p> <p>2 資料を読んで話し合う。</p> <p>○「ただ呆然と避難所の床に座っていた私」は、どのような気持ちで生活していたのでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・津波に流されていく人々を助けられなかった自分の無力さを感じている。 ・助かったけれど、素直に喜べない。 ・悲惨な光景を目にして、何も考えられない。 <p>○笹原のおばあちゃんがくれた「砂混じりのおまんじゅう」は、どんな力を持っていたのだと思いますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「私」を笑顔にする力。 ・一人じゃない、と思わせてくれる力。 ・生きていることのありがたさを感じさせてくれる力。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>○「私」はどうして「このままでは終われない。」と思ったのでしょうか。【副読本の課題1】</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・「幸せ」は当たり前にあるものではないことに気付いたから。 ・笹原のおばあちゃんの思いを受け継がなくてはならないと思ったから。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>◎「私」にとって、笹原のおばあちゃんとの「約束」は、どのような意味を持つのか、考えましょう。【副読本の課題2】</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・笹原のおばあちゃんが言っていたように、笑顔で生きていくこと。 ・生き残った者として、死んだ人たちの思いをつないでいかなければならない。 ・つらいから忘れるのではなく、前を向いて歩いていかなければならない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「第2章2 約束」のキーワードは、「地域密着の教材」と「語り部」であることを指導者として押さえておく。 ・多くのものを失った筆者の悲しみの深さに思いを寄せさせる。 ・自分の考えを書いてから発表させる。 別紙ワークシート ・支えてくれる人がいることのありがたさ、生きていること自体が素晴らしいことなのだという事に気付かせる。 ・笹原のおばあちゃんの死によって、人との絆が幸せにつながることに気付いた「私」の気持ちをとらえさせる。 別紙ワークシート ・命あることのすばらしさや、夢を持って前向きに生きることの大切さに気付かせる。 別紙ワークシート ・4人グループになり、グループ内で自分の意見を発表し、出た意見をまとめ、グループごとに発表する。 ・人間の命は有限だが、だからこそ、強く前向きに生きることの重要性を語ることにより、自分の生き方を考えさせたい。

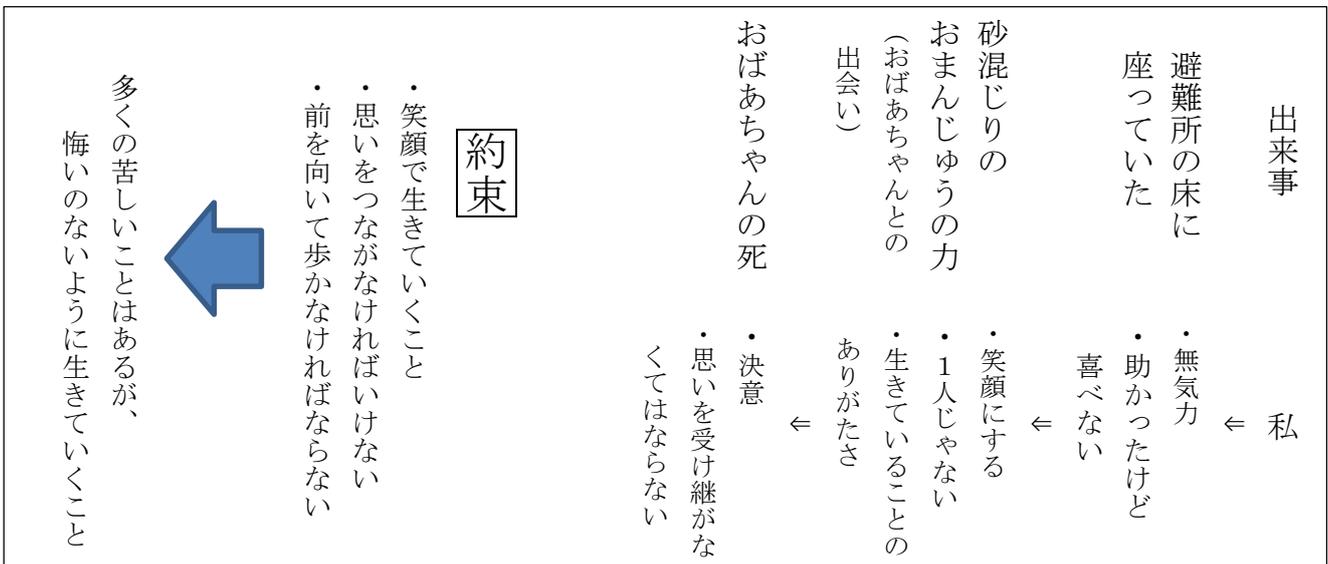
新防災教育副読本（中学校）『第2章2 約束』を活用した 道徳の指導例

<p>3 本時の学習を振り返る。</p> <p>○石巻で被災し、仙台で新しい生活を始めた中学生の作文（地域密着の教材）を基に、学習したことを振り返りましょう。本時の学習を通して考えたことやこれから心がけたいことを書きましょう。</p> <p>4 教師の説話を聞く。</p> <p style="text-align: center;">（説話例）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>人生には、多くの苦しいことがあります。でもそれから逃げるのではなく、悔いのないように生きていくことを考えましょう。</p> <p>自分が体験した災害を忘れず過去の災害に対する教訓も学び、語り部となってそれらを語り継いでいくことが、今後のみなさんの役目です。</p> </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; text-align: center;">別紙ワークシート</div> <p>◎ 評価：ワークシートから</p> <p style="text-align: center;">絆は人の気持ちを強くし、支えあうことで希望が生まれ、強く生きることにつながることに気付くことができたか。</p>
---	--

【参考】この作文は、平成23年10月に仙台市立中学校へ「東日本大震災に関連する記録資料等の提供」を依頼した際に、仙台市内のある中学校から提供された。一部内容を変更して掲載している。

【キーワード】 地域密着の教材 語り部

(4) 板書計画



(5) 準備物・ワークシート

*別紙ワークシート参照

第2章	復興への歩み	名	年	組	番
2	約束	前			
P12-13					

1 「ただ呆然と避難所の床に座っていた私」は、どんな気持ちで生活していたのでしょうか。

2 「私」はどうして「このままでは終われない。」と思ったのでしょうか。

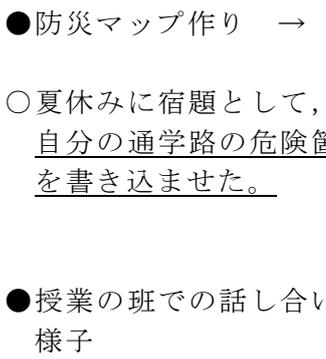
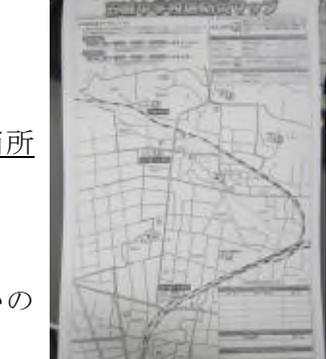
3 「私」にとって、笹原のおばあちゃんとの「約束」は、どのような意味を持つのか考えてみましょう。

4 これからあなたはどんな生き方をしていきたいですか。自分の考えを書きましょう。

災害時の情報と連絡

学校名 七北田中学校 中学校版	氏名 横 橋 雄 市 単元名 情報に振り回されないために P 3 6 ~ 3 7 教科・領域名 総合的な学習の時間 時間 5 0 分	
主な学習活動 (実際に行った活動)	指導の実際	
<p>【ねらい】 災害時の正しい入手方法を学び、情報との適切な接し方を考える</p> <p>1 本時のねらいを確認する。</p> <p>2 信頼できる情報の入手方法を理解する。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【生徒に強調したこと】 情報の入手方法は多様であるが、速さと正確さを両立することは難しい。</p> </div> <p>3 家族との連絡方法を確認する。</p> <p>4 災害心理やバイアスについて理解する。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【生徒に強調したこと】 「バイアス」のような心理状態は、いつでも誰にでも起こりうる。日常の自分にも、実は似たような心理状態が起きている。</p> </div> <p>5 災害発生時の情報について日頃から考えておくべきことについて、ワークシートに書く。 4人グループで意見交換し、考えを広げる。</p> <p>6 情報との接し方の難しさについて考える。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【生徒に強調したこと】 災害時の情報との接し方について学んできたが、<u>情報との付き合い方は、日常生活でも重要である。</u>ネット世界では、情報を書き込む際にも受け取る際にも危険が潜んでいる。被害者にも加害者にもならないために、きちんとした知識とマナーを身に付ける必要がある。</p> </div>	<p>1 東日本大震災だけに着目させるのではなく、特別警報等も含めて災害と考えさせた。</p> <p>2 携帯電話とスマートフォンについて、実際の利用状況を確認した。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【生徒のワークシートから】 テレビ ラジオ 新聞 ホームページ メール L I N E twitter 災害チャット ロコミ 大型店 掲示板・・・</p> </div> <p>3 <u>家族の集合場所、連絡方法を決めている</u>家庭は多い。弟妹、祖父母については、中学生が安否を確認する家庭もあった。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【生徒のワークシートから】 情報が本当に正しいのかを判断する力を日ごろから身に付けなければならない。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【生徒のワークシートから】 災害発生時の避難方法や家族との連絡方法、食糧備蓄など、情報以外にも日ごろから備えておくことが大切である。</p> </div> <p>6 災害時以外でも、情報、特にネット利用について注意すべきことを追加して指導した。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【生徒のワークシートから】 発信するときも受信するときも取捨選択できる判断力を身に付ける必要がある。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 10px; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>【生徒のワークシートから】 <u>情報の怖さや危うさを学んだ。</u>悪意のある情報や誤った情報もあるので、災害時だけでなく日常から注意したい。</p> </div>	

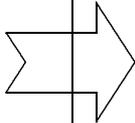
防災マップと写真から危険箇所を探る

学校名 五城中学校 中学校版	氏名 教諭 遠藤 寿江 単元名 自分の身は自分で守る P 40～41 教科・領域名 学校行事 時間 50分	
主な学習活動 (実際に行った活動)	指導の実際	
<p>【ねらい】 ○避難訓練をきっかけに、自分の命は自分で守るということ(自助)について、実際の場面を想定しながら、話し合い活動を通し理解する。</p> <p>【授業の流れ】</p> <p>1 大震災の時にどこで何をしていたか。また、どのような行動をしたかを確認する。</p> <p>2 副読本 P.40 の写真①、②を見て、<u>学校内で被災した際に、どのような危険が潜んでいるか、また、どのような行動が適切であるかを考える。</u></p> <p>3 実際の<u>自分たちの学校の写真</u>を提示し、同様に考える。</p> <p>(日常生活場面・活動中に起こった場合) A：放課後の部活動(体育館) B：登下校中の下駄箱付近</p> <p>4 副読本 P.40 の写真③、④を見て、<u>学校以外の場所で被災した際に、どのような危険が潜んでいるか、また、どのような行動が適切であるかを考える。</u></p> <p>5 班を作り、自分たちが作った<u>防災マップ</u>を用いて、自分たちの地域の危険箇所を共有する。</p> <p>6 P.41 の津波から身を守るための基本的な知識を○×形式で確認し、副読本で細かなところを見る。</p> <p>7 本時の振り返りと感想を記入する。</p>	<p>【準備物】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・防災副読本、ワークシート 校舎内の写真 <li style="margin-left: 20px;">防災マップ <p>●提示用写真 A：放課後の部活動 B：登下校中の下駄箱付近</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>●防災マップ作り →</p> <p>○夏休みに宿題として、<u>自分の通学路の危険箇所を書き込ませた。</u></p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>●授業の班での話し合いの様子</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>●生徒の感想</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日の授業を受けて、<u>普段どれだけ危険なものに囲まれて過ごしているかを、あらためて認識できた。</u>災害の際は、適切な行動を取り、自分の身は自分で守りたいと思った。 ・「自助」について考えさせられた今日の授業を通して、自分が今まで間違っていて覚えていた事もあり、あらためて<u>しっかりとした知識がないと、自分の命は守れないと思った。</u>地震の後の行動がとても重要だと分かった。 	

第4章ー2 自分の身は自分で守る

組 番 氏名

1. 東日本大震災の時、どこで何をしていたか。また、そのとき、どのような行動をしたか。

○何をしていたか。	○どのような行動をしたか。
	

2. 副読本 P.40 の写真を見て、どこに危険が潜んでいるかを考え、どのように行動することが適切かを考えよう。 【学校編】

	どのような危険があるか	どのように行動すれば良いか
写真① 学校で調理実習中		
写真② 登下校中の校舎そば		

3. 副読本 P.40 の写真を見て、どこに危険が潜んでいるかを考え、どのように行動することが適切かを考えよう。 【学校外編】

	どのような危険があるか	どのように行動すれば良いか
写真③ 市の中心部		
写真④ 住宅地の路地		

3. 自分たちが作った防災マップを用いて、自分たちの地域の危険箇所をチェックしよう。

4. 津波から身を守るために

次の問題は、正しいか正しくないか○×を付けてみよう！

Q1	逃げるときは、できるだけ海岸から遠くに逃げた方が良い。	
Q2	津波注意報や警報を聞いて、情報を確認してから逃げた方が良い。	
Q3	津波のとき、早く逃げるために自動車を使ったほうが良い。	
Q4	P.41 の標識は、「津波避難場所」を示している。	
Q5	三陸地方には、「津波でんでこ」という言い伝えがある。これは津波が来たらたとえ肉親にも構わずに、各自でんでんばらばらに逃げるという意味である。	

5. 今日の授業を受けての感想

地域での共助を考える

<p>学校名 将監東中学校 中学校版</p>	<p>氏名 小野寺 雅美 単元名 地域の一員として P 5 2～5 3 教科・領域名 総合的な学習の時間</p>	<p>時間 5 0 分</p>
<p>主な学習活動 (実際に行った活動)</p>	<p>指導の実際</p>	
<p>ねらい 災害時，地域の一員としてどんなことができるか考える。</p> <p>1 大震災の際，自分のまわりでどのような助け合いがあったのか振り返る。</p> <div data-bbox="167 629 799 734" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>3.11 の直後，自分の住んでいる地域では，どんなことで助け合いましたか</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・水汲み ・瓦礫の片付け ・近所の子の守り ・買い出し ・水・弁当配り ・風呂の貸し借り ・ガソリンスタンドの情報交換 ・宿泊 等 <p>2 自主防災組織の中で，自分でもできそうなことについて考える。</p> <div data-bbox="178 1021 799 1189" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>自主防災組織で行うことのなかで，<u>中学生でもできること</u>には，どのようなものがあると思いますか？</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・携帯電話での情報を伝える。・避難所への誘導 ・軽傷の処置 ・炊き出しの手伝い 等 <p>3 災害時要援護者支援について知る。</p> <div data-bbox="183 1451 799 1570" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>災害時要援護者とはどのような人のことを指すのか知っていますか？</p> </div> <p>4 共助のために私たちに何ができるかを考える。</p> <div data-bbox="175 1700 791 1868" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>保健師さんの記録からを読み，<u>中学生の活動が効率よくできた理由</u>を考えてみましょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・普段から自分の住む地域のことを把握していれば中学生も地域で役に立てる。・協力することが大切 	<div data-bbox="1023 398 1278 544" style="text-align: center;">  </div> <p>1 自分たちの体験を振り返り，大震災の時に地域の人々と協力して乗り切ったことを思い出させる。</p> <div data-bbox="911 734 1390 925" style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>2 図を見ながら，情報収集 初期消火 救出・救護 避難誘導 給食・給水 について，それぞれ考えさせる。</p> <div data-bbox="855 1088 1442 1290" style="text-align: center;">  </div> <p>↑図「浜松市防災ホッとぼっくす」(浜松市 HP) より</p> <p>3 災害時要援護者支援について教師の説明を聞き，ワークシートに記入させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者，・難病患者，・妊婦，・障害者 ・5歳未満の乳幼児，・外国人など <p>4 東日本大震災の時に実際にあった中学生の活躍を知り，効率よく活動するために大切なことを話し合わせる。</p> <div data-bbox="887 1789 1410 2002" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(生徒の感想から) 当時小学校4年生だったので3.11では何もできませんでしたが，今ならみんなと協力して地域の一員としてできることがあると思いました。</p> </div>	